

令和3年市町村広報コンクール審査票(町村部)

○広報紙の名称「広報しょうわ 10月号」

評価された点

【全体】

- ・目次がしっかりしており、読者はまず興味のあるところから読み進められる
- ・村のホームページやフェイスブックなどさまざまな媒体もQRコードで誘導できるように整理され、読み手に親切な構成

- ・レイアウトや色使い、記事の配置などがワンパターンに陥ることなく統一感がある

【表紙】

- ・中学2年生の認知症サポーターとお年寄りが語らう自然な表情を写した素晴らしい写真
- ・2人の表情が良く、認知症という重いテーマに前向きに取り組もうという今号を象徴している
- ・特集に直結する写真と見出しで、読者にページをめくって中身を読んでみようと思わせる力がある

【特集】

- ・高齢化社会の日本で大きな課題になっている認知症をテーマに力の入った特集
- ・さまざまな観点から問題に切り込み、認知症サポーターの中学生も登場させ、若い層にも目を向けさせようとしている
- ・明るい写真をふんだんにちりばめることで紙面から前向きな思いが立ち上がってくる
- ・介護者・ケアマネジャーの声、中学生のデイサービス体験、専門医、高齢者サロン、相談窓口と認知症に関わる人を取り上げ、他人事ではなく、自分事にしていこうと訴えた
- ・多くの写真を大きくあしらい、全員が笑顔。みんなで助け合っていこうという思いが伝わった
- ・介護者の話や専門家の解説、支援状況などで多角的に紹介し、村の現状を丁寧に伝えている。表紙やリード面の写真もよかった。これを1人で取り組んだのは驚き
- ・文量が多くなりがちだが、小見出しを付けるなどアクセントを入れ、少しずつでも読み進められる様に工夫されている

【その他】

- ・「昭和村の家計簿」では 昨年度の村財政の決算報告、用語解説を付けて分かりやすくしている。写真付きで主要事業も紹介し、お金の使い道についても情報発信している点も評価できる

令和3年市町村広報コンクール審査票(町村部)

○広報紙の名称「広報おうら 12月号」

評価された点

【全体】

- ・32ページ(平均でも28ページ)とボリュームがあるが、後半の連載物や町民の意見コーナーなど盛りだくさんな紙面構成になっている
- ・写真のクオリティ、扱いともに秀逸
- ・さまざまなコーナーごとに取材や文章の構成に工夫を凝らした分かりやすい記事が多く、全体として読み応えのある紙面になっている

【表紙】

- ・ラグビーの指導を受ける少年のいきいきとした表情の写真から、巻頭特集につなげた。表紙の見出しの付け方がうまく、読者は特集にすっと引き込まれる

【特集】

- ・「トンガ王国・邑楽町の交流へ向けた実現の一步」楽しい写真をふんだんに使った組み写真で「共生ホストタウン」を目指したトンガ王国との交流の様子を紹介した。参加者の声を「吹き出し」で扱うなど、読みやすいレイアウトにも好感を持てる
- ・デザインがあか抜けている
- ・上記のトンガを含め、特集記事が充実している。ごみの問題は出し方の変更や減量化などの課題を分かりやすく発信。パブリックコメントに焦点を当て、町政への関心を高めている
- ・ごみ焼却施設の新設に合わせて、ごみの出し方が変わる事情を丁寧に分かりやすく説明している。「町のごみ排出量トップ3」などのまとめ方にも工夫が凝らされており、読みやすい
- ・図や表、写真を多用してごみ減量の大切さを分かりやすく訴えた

令和3年市町村広報コンクール審査票(町村部)

○広報紙の名称「広報ちよだ 11月号」

評価された点

【全体】

・表紙の「プペルハロウィン」の写真から特集「まちの農を守る」、「脱たばこ」など、企画力と表現力が光る。写真のクオリティや扱いもうまく、ビジュアル面でも勢いがある

・中面に情報を集中させて、後半は写真特集を配置して飽きさせない工夫が感じられた

・全ページフルカラーを有効に活用した多彩な色使いは目に優しい。余裕を持たせたレイアウトで縦組み、横組みを効果的に使い分け、さまざまな大きさの写真を的確に配したレイアウトはレベルが高い

【表紙】

・光る絵本に目を輝かせる子供たちのアップが目を引く。参加町村の中で唯一、目次も見出しもなく、インパクトがあった

【特集】

・後継者問題を主テーマに異なる3人の事例を紹介。多様な視点から農業の大切さや後継した人の思いなどに迫っている

・町内の農業人口が20年弱で半減しているデータを総論で示した後、若手農家と先代の親のそれぞれの思いを多数取り上げ、面白い読み物に仕立てた。取材力と表現力が素晴らしく、写真もうまくはまっている

・写真やイラストを交えて見やすくレイアウトされ、内容も読みごたえがあった。子供の収穫体験、就農者支援策と町の施策にうまくつなげた

・手間暇かけた力作。子どもたちの稲刈り体験と支える人の記事や支援策も掲載し、いまの町の農業の様子をうまく切り取っている

・転職し就農された方の中から20代半ば、30目前、50代、さらにその背景も様々な方を紹介しており、いつでも就農ができるということ、そして支援策の紹介へと、ページ構成がよくできていた。家族のコメントも良く、作付品目をイラストで表現しているのもアクセントとなり良かったのではないかと

・脱たばこの特集は説得力があり、グラフや表も効果的に使っている。なぜ群馬は喫煙率が高いのか知りたくなった

・県内の喫煙者の割合が高く、千代田町の喫煙率がきわめて高いことをデータで示したうえで、グラフを生かして悪影響や禁煙治療についてわかりやすくまとめた。多くの町民にとって「お役立ち感」が大きな企画となったのではないかと